茨城のスポーツ少年団

第35号　発行／平成27年3月30日　編集／公益財団法人茨城県体育協会茨城県スポーツ少年団

TEL 029-226-9972　FAX 029-226-9973　URL http://www.ibaraki-sports.or.jp/ibarakiken/

茨城県スポーツ少年団大会（野外活動）は、県スポーツ少年団が発足した昭和三十九年の翌年昭和四十年に第一回大会を開催して以来、今年度第五十回大会を無事開催することが出来ました。ひとえに多くの関係者のご尽力があってのことと思います。この間、開催場所は里美野外活動センター（常陸太田市）、白浜少年自然の家（行方市）中央青年の家（土浦市）と移してきましたが、施設とその周辺の豊かな自然環境の中で飯ごう炊爨・オリエンテーリング・キャンプファイヤー・レクリエーション活動などを通じて普段の単位団活動の種目に拘らず沢山の友達作りや団員同士の親交を深めてきました。現在活躍されている指導者の方々や保護者の方々の中にも参加された経験を持つ方がおられることと思います。現在は設備の整った施設での開催で快適性が増していますが里美で開催していた当時は三日間多少の風雨に晒されても自分たちだけで焚き火で自炊をした経験は達成感もひとしおだったと思います。競技にこだわらず、このような活動への取組みはスポーツ少年団の重要な要素であり、今後とも多数の参加と本活動へのご協力をお願い致します。

（上級リーダー指導委員会）

第41回 日独スポーツ少年団同時交流受入事業 牛久市 7月31日～8月4日

初のホストファミリー体験！

田井　慎子

この夏の体験は、我が家初となる貴重な体験となりました！緊張しながら参加した歓迎レセプション。2人のドイツ人青年を前に何も話せず・・・英語を話せるかと聞かれて、ジェスチャーと日本語で答える始末。職員さんにも心配されるほど、前途多難な5日間が予想された瞬間でした。

全5日間とはいえ、一緒に居る時間は本当にわずか。分かりやすい英語を話してくれたお陰で、単語と筆記で何とか意思疎通はできました。ただ、何事も詳細を伝えることが難しく、飲み込んだ言葉もたくさんありました。今回の経験から、我が家では早速スピードラーニングで勉強中です。

彼らは、毎日帰宅後に子ども達とサッカーをして楽しみました。初日にはドイツの家族や日本で滞在した場所の写真を見せてくれました。初めて浴衣を着たときは本当に嬉しそうで、きっと“スゴイ！”と“カッコイイ！”という言葉を覚えてくれたことでしょう。

ドイツの文化は知りませんでしたが、子どもの頃から中華レストランでお箸を使っていたことや、学校では8歳から英語を学ぶことを教わりました。

言葉に頼る親とは違い、子ども達とはオセロやババ抜き、ジジ抜きで楽しみ、ドイツのトランプゲームも教えてもらいました。

ホストファミリーの日には、友人のホストファミリーと一緒に行った、海と温泉はとても楽しかったようで、夜は日焼けの背中にヨーグルトを塗りながらニコニコしていました。

今まで、国際交流とは程遠い生活をしていましたが、これを機に海外に興味を持った我が家です。この夏の貴重な体験は、我が家にいろいろなものをもたらしてくれました。

この機会を与えてくれた関係者の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

第41回 日独スポーツ少年団同時交流派遣事業 ドイツ 8月1日～8月18日

派遣団員報告

Break the limit!

大高　さつき

私は中学生のときに参加したジュニア・リーダースクールでこの日独同時交流の存在を知りました。それからずっとこの日独同時交流に参加することが憧れであり、目標でもありました。21歳になり、今しかできないことを経験したい、成長したいと思い、グループのリーダー長を務めさせていただきました。私自身、リーダー長を務めるということ自体が成長することへの第一歩でした。海外で18日間も生活していく中で、不満やストレスはあったと思います。でも、このグループの皆と過ごす時間は本当に楽しいことばかりでした。グループの皆のおかげで、グループ長として非常にやりやすい環境でした。また、地方プログラムでは、ホームステイをしたり、スポーツをしたり、観光したりと様々なことを経験することができました。言葉の壁にぶつかったり、悔しい思いもしたけど、ドイツで出会った人、経験したこと、感じたこと全てが宝物です。ありがとうございました！

鯉沼　志帆

今回、日独スポーツ少年同時交流に参加するにあたって目標にしていたことは、「楽しかった」だけで終わりにしないこと。それは多くの価値観から自分を成長させる新たな「何か」を得ることです。実際ドイツに渡って過ごした18日間は本当に楽しかったです。たくさんの人々と交流して思い出を作り、その数だけ多くのことを見て、聞いて、感じて、学ぶことができました。特にニーダーザクセンとメクレンブルク＝フォアポンメルンのホストファミリーをはじめたくさんの方々にお世話になりました。また19日間行動を共にしてきたグループのメンバーとは共に支え合ったからからこそ無事に帰国することができました。次は今回得たものをどう活かしていくかです。自分の糧にするだけでなく、これからのリーダー育成、スポーツ活動の活性化につなげることができたら、このような素晴らしい機会を作ってくださった日本体育協会に恩返しができるのではないかと考えます。本当にありがとうございました。Danke!!

ドイツを経験して

志村　桃果

今回、日独同時交流に参加して多くの経験を積ませてもらいました。私たちのグループは、合同したグループということもあり人数が多く戸惑う部分もありましたが、グループの団員の明るさに助けられ、乗り越えられたと思います。体験させてもらったことは何もかもが新鮮で、私自身に身に付くことばかりでした。ディスカッションの際にはドイツの方々の積極性に驚き、見習うべき点であると改めて実感させられました。ホストファミリーの方々も優しく接してくださり感謝の気持ちでいっぱいです。

また、乗馬、フェンシングや水上スキーといった多くのスポーツも体験させてもらい、ドイツのスポーツに対する環境の豊かであることを知りました。

自分達の目標であったブレイクザリミットを達成し、大きく成長することのできた日独同時交流がいつまでも続くよう、また多くの団員が経験できるように私達が伝え、未来へとつなぐ役割を今後のリーダー会活動で果たしていきたいと思いました。

平成26年度 日本スポーツ少年団 表彰楯授与式

9月6日
潮来市

受賞市町村

・行方市

受賞指導者

・小林　敏男（日立市）
・黒羽根史朗（東海村）
・駿橋　利生（牛久市）
・大場　由雄（行方市）
・千ヶ崎正義（行方市）
・吉田　清（行方市）
・篠崎　博幸（阿見町）

受賞の言葉

阿見町吉原バドミントンスポーツ少年団
篠崎　博幸

このたび日本スポーツ少年団指導者表彰をいただき、お礼申し上げます。

あらためて振り返りますと、「バドミントンと少年団」に出会い、団員と共にプレーする楽しさやゲームに望む緊張感、夢・目標を持ちそのために「コートの中では一所懸命に努力する。」ことを意識し、楽しみながら強い心を育むことを念頭に20年間続けてまいりました。

これまでに大勢の子供達に出会い、楽しい事ばかりではないときもありましたが、子供達や父母の皆様に支えられながら、なんとか続けられた気がいたします。

いまだに意識の成長を期待して叱咤激励する場面もありますが、卒団した子が遊びにきて「前はもっと怖かったよ！」などと言われると、苦笑いすることもあります。表彰を受けることが目標ではありませんが、いただけると嬉しく励みになるもので、これからもスポーツに熱く燃えることの楽しさを子供達に伝えて行きたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

行方市スポーツ少年団
本部長　川島　信義

この度、名誉ある日本スポーツ少年団表彰を受けまことに身にあまる光栄でございます。

私どもは、スポーツ少年団活動を通して子供達の健全育成を目指して微力ながら尽力して参りました。近年少子化により学校の統廃合に伴い、団員及び単位団の減少により各少年団にいかれましてはご苦労されていると存じます。スポーツ少年団の活動は、地域にとってますます重要であるということを日々感じ地域に根ざした活動をしているところでございます。行方市スポーツ少年団は、昭和五十年代頃にそれぞれの町（旧麻生町、玉造町、北浦町）にスポーツ少年団が発足し現在に至るまで、各スポーツ少年団への登録を推進し各単位団の活動ばかりでなく、交流会や駅伝競走大会などを図ってきました。また、これらの行事に併せてクリーン作戦などの環境美化活動にも取り組んでおります。私は、常日頃子供達に挨拶の大切さ問い掛けています。挨拶を通して交流を深め明るい地域になる事を願っております。私達一同は、今回の栄誉を励みとし、それぞれの活動に精進して参りたいと思います。有難うございました。

スポーツ少年団 指導者研修会

普及・広報委員会　草山　美和子

平成26年9月6日（土）、かんぽの宿潮来にて開催された茨城県スポーツ少年団指導者研修会の講演会で、弁護士の望月浩一郎先生に「すぐれた選手・チームを育てるのに指導者には何が求められているか－暴力に頼らない指導－」をテーマにお話しいただきました。

最初に、ネットに投稿されて話題になり、一部のニュースでも報道された体罰の動画を皆で見ました。たいへん衝撃的な映像で、会場の空気がいっそう引き締まったところで、望月先生は「こうした場面はいまだに根絶には至っていない。それどころか、信頼関係があればこうした暴力は許されるという意見のトップアスリートもいる。たいへん残念なことです」とお話を始められました。

その後先生は、さまざまな種目での体罰の実例を挙げながら暴力行為はいかなる理由があっても許されないと続けられました。体罰が強いチームを作る、成果に結びつくという考えは間違いである、というお話もされました。

スポーツ現場での暴力を根絶するためには

・暴力・体罰は許さないとの明確な立場を宣言すること

・暴力・体罰を隠蔽させず、これを許さない毅然とした行動をとること

・暴力・体罰に頼ろうとする指導者、生徒、保護者への啓発活動を行うこと

が大切とのことでした。しかし、こうした考え方に理解を示し、実際に行動に移している競技団体はまだ少ないとのことでした。

スポーツ界での体罰という暴力行為の背景についてのお話もありました。絶対服従を強制した日本の軍隊から帰ってきた人達が体育の教師となったことや、スポ根マンガが普及したことによって世間に「体罰や暴力は強くなるために必要」と誤って認識されてしまったことが遠因ではないかというお話はたいへん興味深いものでした。

また、これからのスポーツの指導者が目指すべきなのは、子供達がルール違反をした時も型にはめて叱ったりせず、子供達に自分で考えさせる指導です、というお話がありました。技術の向上や実力アップのために、その練習が必要な理由を科学的な根拠に基づいて説明し、子供の理解を得た上で、本人が納得して練習に向かえる体制を作ることが必要というお話はたいへん説得力のあるものでした。選手が楽しい気持ちでできるスポーツを目指し、子供達が自らやる気になる雰囲気を作ることが大切で、こうした取り組みが、指示待ち人間を作らない、暴力を隠蔽させないという流れにつながっていくのです、というお話をみな熱心にメモを取りながら聞きました。

スライドを使って具体的な例を挙げてくださりながらの講演はたいへん分かりやすく、また胸を打つお話でした。講演を通してどんな理由があっても暴力・体罰は絶対に許されないことを望月先生は繰り返し訴えられ、講演会に出席した全員がそれをしっかり理解したと思います。

スポーツ少年団 女性フォーラム

1月25日 日立市

女性指導者の今後に　牛坂　恵理子

今日のように、女性が競技選手や指導者として活躍できるようになったのは多くの先輩方の努力があったからなのだろう。宮嶋泰子先生の話を聞き、改めてそう思った。DIVERSITY（多様性）を中心のテーマに選ばれたのは、宮嶋先生自身が男性社会の中で苦労されてこられたからかもしれない。

私も、男性の指導者が圧倒的に多い競技に所属している。審査などは男性と勝負しなくてはいけない。つい、「負けまい」という気持ちになってしまう。しかし、「女性の目線で指導に携わっていく」ことが、私達に求められているのだとすれば、無理に対等にならなくても良いのかもしれない。男性とは違った目線で関わっていければ良いのだ。特に女性競技の身体を理解できる強みがある。また、少年指導の上では母としての関わり方もできる。

今回のフォーラムは、私達が「自分にできること」「自分しかできないこと」を考える良い機会となった。今後も研修に努め、次代を担う子供達のため、指導者となっていく後進育成のため頑張っていこうと思う。女性指導者の今後に乾杯である。

平成26年度

ジュニアリーダースクール

6月22日～23日 土浦市

10月5日～6日 常陸太田市

第1回

学びと楽しさの二日間

坂本ミニバス　生島　あかり

私は、小学校を卒業して、中学生になって、部活が忙しくても、たまにミニバスに行きます。行くたびにすごく懐かしい感じがします。行ったときに教えてあげることもあります。二日間ここで学んだことも含めて今度行った時に教えてあげたいなと思いました。この宿泊は私自身がスポーツ少年団のことをたくさん知れたいい機会になったのではないかなと思います。初対面の人とも仲良くなれたのではないかと思います。最初は、少し不安もあったけれど、生活面のことやレクレーションも含めて楽しい二日間になったと思います。

このジュニア・リーダースクールで実技や体力テスト、講義などたくさんのことを学びました。この学んだことを忘れずにこれからもスポーツ少年団の活動に取り組んでいきたいと思いました。この二日間お世話になりました。ありがとうございました。

第2回

ジュニア・リーダースクールを終えて

東金沢バドミントンスポーツ少年団　薄井　瑠美

私がこのジュニア・リーダースクールでたくさんの事を学びました。その中でも、特に心に残った事は三つあります。

一つ目は、「ドイツ派遣に参加して」というお話です。話をしてくれた人は、ドイツにホームステイしに行ったといいう事やドイツの暮らしを教えてくれました。ドイツでは、日本の物や文化などにドイツ人が興味を持ち、折り紙や茶道、書道、かるたなどをしている写真を見せてくれました。最初は、ちがう国の知らない人の家に泊まると聞いて、とてもびっくりしたけれど、鯉沼さんの楽しそうなすがたを見て私も将来行って見たいと思いました。

二つ目は、スポーツ少年団とはどんな団体だろう?という事です。今までそんな事考えた事がなかったので、むずかしかったけれど、話を聞いてこうだったんだとよく分かりました。スポーツ少年団は、子どもたちが自由時間に地域社会でスポーツを中心とした幅広い活動をグループ活動で行う団体という事を始めて知りました。

三つ目は、リーダーの役割です。リーダーは単位団活動をしながら、団員のまとめ役や指導者のお手伝いをする団員のことです。そして、指導者の指導のもと、団員の気持ちを理解してグループをまとめ、さらに目標に向かってグループを育てていかなきゃいけないと知ってリーダーの存在はとても大きな物だと思いました。

私のリーダーとして今後の目標は、団員の気持ちや考えを聞いてあげたり、目標の達成のために進んで活動できるリーダーになれるようにがんばります。

第52回 全国スポーツ少年大会

マリーンキッズスポーツ少年団

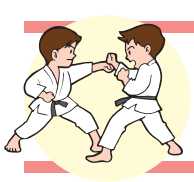
杉本　麻衣

中学3年生になると受験シーズンに入り、外に出て友達と遊んだり交流したりする機会が少なくなってくるため、今回全国大会へ参加しました。一番楽しみにしていたハイキングは前日の雨と強風により中止となってしまいましたが、その分リーダー達が楽しいレクリエーションなどをやってくれたので自分もハイキングできなかったおちこみより楽しむことができました。キャンプファイヤーでは、「ジンギスカン」の大阪バージョンがとてもおもしろくて茨城に帰ったら、皆に教えてあげたいなと思いました。全国スポーツ少年大会に参加するのは初めてでしたが、皆とたくさん交流し、友達もたくさんできたので、とても良い経験になりました。この経験は、一生の宝物にしたいです。

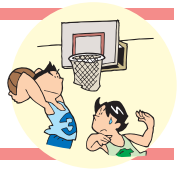
引率指導者　鐵　早也佳

初めて参加させて頂きました。全国の指導者さんの色々な意見を聞くことができすごく良い体験ができました。団員に対しても、どう接し、指導してあげたら良いのか分からず、戸惑いましたが、団員の子と話すきっかけを、作る事によって私を含め、団員同士の仲も深まっていくと改めて気付く事ができました。

又、指導者として周りに目を向け、気付き、指導して行く事の大切さを学び、どうしたら子どもが納得する指導ができるのかを、考えさせられた4日間となりました。運営をして下さった方、班リーダーさん、4日間ありがとうございました。未熟者ですが、私も楽しめた大会となりました。

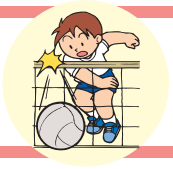


一年のあゆみ



第50回スポーツ少年団大会　7月25日～27日

つくばブロック交流大会　平成26年７月12日



一年のあゆみ

日独同時交流受入_7月31日～8月4日（牛久市）

指導者研修会　9月6日（かんぽの宿潮来）

第31回　茨城県スポーツ少年団スポーツ大会　駅伝大会　11月30日（笠松運動公園）

女性指導者フォーラム　平成27年１月25日（日立市女性センター）

ガンバッテいます！

県北 日立中央クラブスポーツ少年団

指導者　宮本　実

平成十四年に心身の向上を目指すことはもちろん、四季折々の行事を計画・実行、「気楽に」をモットーにクラブ員同士の親睦・交流を図ることを目的として設立しました。

現在は中学生から小学一年生まで団員二十一名・指導者二名で、毎週水曜日午後五時～七時日立市油縄子小学校中心にドッジボール・ゲーム・軽スポーツ等、色々団員の希望することを取入れながら活動しています。

年間行事として、ハイキング・スキー・スケート・社会見学の旅・ボウリング等を計画実施してきました。

これからも実施できるよう頑張ります。

今後も団員が大人になったときに、今やっていることが少しでも役に立つことを願って活動しています。

水戸 上小川スポーツ少年団

代表指導者　竹内　秀一

上小川スポーツ少年団は地域の人々の強い希望により昭和58年野球部が発足されました。昭和60年には女子のミニバスケットボール部と剣道部が設立されました。団の目的は一人一人の団員がそれぞれの競技を通じて心身を鍛え社会への協力精神を養い、青少年の健全な育成を図ることと親子の関係を一層深め、地域の連帯を深めることが目的で設立されました。現在は児童の減少に伴い野球、ミニバスケットを問わず総合的なスポーツに参加するという形で組織を編成し軟式野球をメインとして陸上競技や駅伝大会の参加を含め部員17名で活動しています。

練習は、毎週3回行い大会なども年20大会ほど参加しています。夏休みには東京ドーム観戦やキャンプ、卒団生とのバーベキューなどをしています。地域の人達との交流も老人会とのグラウンドゴルフ大会や青年会との秋祭りなどをし、連帯を深めています。今後部員は減少し続けていきますが、一人一人の夢の実現に向かい進んでいけるように日々活動しています。

鹿行 潮来ソフトテニススポーツ少年団

代表指導者　園部　文子

間もなく十七年目を迎える当団は、潮来あやめソフトテニスクラブの下部組織としてスタートしました。現在は月一回のクラブ員との交流会で指導を受け、週四回練習に励んでいます。

当団の活動は保護者の理解がないとできません。子供たちの実力が上がれば上がるほど保護者の負担も大きくなります。練習場や、各地で行われる大会への送迎などは大人の力が必要です。このスポーツの楽しさを知ってもらおうと年二回親子大会を開催し、子が親のカンの良さに驚き、親が子の成長に楽しみながら試合をします。また大会運営方法を覚え、中学一年生と小学生の大会を開催し地域の子供達の活動にひと役買っていただいています。

この数年春の全国大会への出場機会に恵まれ、夏の全国小学生選手権大会を目指して頑張っているところです。

最近はシングルス戦も導入され自分一人の力が試される心理的な戦いの混じった難しい競技です。今後の子供達の成長に少しでも役に立てばと願って指導者一同頑張っていきます。

県南 林スポーツ少年団

団長　倉持　貴司

私達林スポーツ少年団は、石岡市林小学校に通う一～六年生からなる少年団で、男子は野球、女子はバレーボールで活動しております。主に石岡市の大会等で活動しておりますが他の市町村の大会等も出場しています。

林スポーツ少年団の歴史は浅くなく最近では、指導者も林スポ少出身で親子二代で活動するという団員も増えています。一方少子化の影響もあり入団する子供も減ってきているという現状でもあります。しかし、少ないながらも男女児童共に元気に活動しております。

私達は、野球、バレーボールというスポーツを通じて技術はもちろんですが、健全な子供の育成、礼儀そして仲間を大事にし、

両親に感謝する事。そういう心を忘れないでがんばってバレーする子供達を応援しています。

他にも年間を通じて、レクリエーションやBBQ、マラソン大会出場等さまざまな活動も行っています。

最後に練習は、林小学校グラウンド、体育館で行っていますので興味のある方はぜひ見学に来て下さい。

県西 下館あしかびミニバスケットボールスポーツ少年団

代表　大島　正樹

あしかび女子ミニバスケットは、現在、六年生が抜け、五年生六名、四年生五名の計十一名でがんばっています。

練習は、火・水・木曜の週三回、午後四時三十分～6時四十五分、下館小学校体育館で行っています。

六年生が抜けて、今のチームになり、まだまだ勝つ喜びに出会えない事が多いですが、まずは、ひとつひとつの練習をきちんと積み重ね、一人一人の力を高めてゆければと思います。

そして、チームスポーツの中で、自分の力を思い切り発揮するためには、仲間の力を信頼し、仲間を思いやり、お互いの力を高め合う事が、チーム力をアップさせると考えております。

練習に打ち込み、その先に勝敗を競う試合があり、勝っても負けても涙し、次こそはと、練習に打ち込む。そのサイクルの中で、一人では体験できない、大きな感動に出会える。絆が生まれる。・・・と思っています。

しかし、まずは、部員皆が、バスケットが大好きで、楽しんでいる事を知って欲しいです。子供達は、日々成長しています。

スポーツする事で、心も身体も健康に、少しくらいの事には負けない強さを、あきらめないたくましさを、培っていけたらと願って、子供達と共にバスケットを楽しんでいます。

どの子も皆、練習に汗を流し、それぞれの力を持っており、試合は、全員出場を目指しています。

部員数は、少ないですが、バスケットを楽しみながら、成長してゆく子供達と共にがんばっていきたいと思います。

ありがとうございました。

2014年日中青少年スポーツ指導者交流日本派遣団に参加して

団長　髙山　能昌

今年の中国派遣団員として湖南省へ10月19日から28日までの10日間全国より7名が集まり訪問しました。

湖南省は、長江（揚子江）の中流域で洞庭湖の南に位置し、中国共産党主席、毛沢東の誕生の地で、水と緑に恵まれたところです。省人口は6800万人余、漢民族の他、少数民族（土家族、苗族、白族等）で構成されています。

中国は、2008年の北京オリンピックを開催して以来、スポーツも経済も一段と飛躍、発展し、すさまじいスピードで近代化進んでいると感じました。しかし、空は、PM2.5の影響により霧がかかっているようで太陽が全く見えませんでした。屋外スポーツを積極的にやれる状況はなく、早く好転することを願うばかりです。

国のサッカーのレベルを高める為2007年から小学校をはじめとして全国統一種目にし、2008年から積極スポーツ法が施行され指導者の国家認定制度、青少年スポーツの国際交流促進、幼少年体育テスト、体育運動学校（特殊訓練学校）の設置、省、市レベルの大会の実施、青少年のスポーツの国際交流促進、幼少年の体力向上活動、健康の為のスポーツ活動等々積極的に動き出していました。

国際大会での好成績の源の一端が見えてきました。障害者スポーツも国の経費で訓練や大会を開催し、2013年は省の代表が大活躍、国内でも上位につけているとのことでした。省の障害者学校には約700名が在学し自立の為の訓練を受けながらスポーツ活動も行い、レベルアップの為に健常者と共に競技をすることもあるそうです。限られた時間の中での説明を受け、有意義な時間を持てました。

私達もスポーツ少年団の事、総合型地域スポーツクラブ、幼少期のスポーツ活動等について話をさせていただきました。

北京五輪後の方針で、後継者育成体制として体育伝統学校等での強化を図り、特待生制度、小中高校一貫した訓練システム、又競技実績による学校のランク付も実施、有望選手の発掘が国レベルで行われています。

10日間の指導者交流で、中国側の心温かい応接に厚くお礼を申し上げると共にスポーツに国境はない、スポーツは人と人との絆を強くする事を再認識しました。

「少年団団員減少について」

普及・広報委員会

日本スポーツ少年団は創設五十年を経過し、五十年ひと昔と言われるこの機会に、改めてスポーツ少年団の掲げる理念を再確認して見たいと思います。

「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供しスポーツを通して心身の成長を育む。」

「スポーツで人々をつなぎ地域づくりに貢献する場、スポーツによる国際交流で青少年が国際人に成長する場とする。」

以上の理念のもと、各単位団指導員は団員の指導に情熱を注いでいると思います。

近年、茨城県スポーツ少年団主催指導者研修会等で、団員減少が問題提起されるようになりました。

そこで登録スポーツ少年団の平成二五年度から二六年度更新団員数の増減を比較してみました。増加団三五％、減少団五六％、増減無し九％、新規登録は二九団ありました。

また、茨城県全体の児童数減少により団員の減少が上回っております。少子高齢化の進む今日ですが、団員減少は単に少子化のみが原因ではない事がうかがえます。

茨城県スポーツ少年団普及広報委員会では、団員減少への方策として団員増加にある3単位団への活動状況取材を試みました。各団とも勝つことよりもスポーツ本来の楽しさや基本指導を中心に、レクリエーションを取り入れ友達づくりや楽しい活動を心掛けているとのことでした。

日本スポーツ少年団の第9次育成5ヵ年計画により二七年度、スポーツ少年団登録数の増減に関する要因調査があります。本県では、調査結果を参考に検討していきたいと考えております。

第50回 スポーツ少年団大会

3日間で学んだこと

大久保バレーボールスポーツ少年団

大森　礼蘭

私は、この3日間茨城県中央青年の家でいろいろなことを学びました。

一つ目は、優しく声をかければだれでも友達になれるということです。私は、会場に来る前には、『友達できるかな?』『仲良くできるかな?』など不安でしたが、会場に着いて『自分から話かけないと友達になれないし、仲良くすることもできない』と思い、みんなで体育館に集まった時に声をかけました。そしたら、友達になり、部屋も一緒ですごく仲良くなりました。

二つ目は、協力の大切さです。一日目のオリエンテーション班別ミーティングの時に、班の旗をつくりました。その時班のみんなで一生けん命つくり、完成させました。2班の旗はきれいに仕上がりました。そして、2班のみんなは積極的に意見を出しあう人がいっぱいでスムーズにつくりあげることができ、二日目の飯ごう炊さんでは、みんなで協力し、おいしいカレーをつくることができました。

これを見て私は、『協力っていうのは、そういうことなんだな』と感じました。

私はこの3日間、最初不安だった友達もつくることができ、仲良くすることもできたのでとても楽しい3日間になりました。

日本スポーツ少年団指導者綱領

1. わたくしたちは，次の時代を担う子供たちの健全育成のために努力します。
1. わたくしたちは，スポーツのもつ教育的役割を果たすために努力します。
1. わたくしたちは，子どもたちのもつ無限の可能性を開発するために努力します。
1. わたくしたちは，つねに愛情と英知をもって子どもたちと行動するよう努力します。
1. わたくしたちは，スポーツを愛する仲間とともに世界の平和を築くために努力します。

日本スポーツ少年団団員綱領

1. わたくしたちは，スポーツをとおして健康なからだと心を養います。
1. わたくしたちは，ルールを守り，他人に迷惑をかけない，りっぱな人間になります。
1. わたくしたちは，スポーツによって，自分の力を伸ばす努力をします。
1. わたくしたちは，スポーツのよろこびを学び，友情と協力を大切にします。
1. わたくしたちは，スポーツをとおして世界中の友だちと力をあわせ，平和な世界をつくります。

編集後記

現在、スポーツ少年団は団員や指導者不足や、スポーツ界におけるセクハラ・暴力問題、また団によって団運営に係る諸問題など様々な課題を抱えています。今原点に戻って「スポーツを通じて次の時代を担う子供たちを健全に育成するためにはどうすべきか?」時には激しい討論になるかも知れませんが皆で知恵を出し合って乗り切りましょう。

○普及・広報委員会
委員長　友部　静江
副委員長　水野　幸男
委員　鈴木　孝子
鈴木　修一
會澤　一夫
草山美和子

いざというときしっかりサポート！

スポーツ安全保険

傷害保険　賠償責任保険　突然死弔慰金見舞金保険

※5名様以上の団体・グループでご加入下さい

スポーツ活動以外の団体もご加入いただけます！

加入対象者	補償対象となる団体活動等	加入区分	年間掛金
子ども（中学生以下）	スポーツ・文化・ボランティア・地域活動	A1	800 円
大人（高校生以上）*65歳以上の方も加入できます	文化・ボランティア・地域活動・団体員の送迎など	A2	800 円
	スポーツ活動・スポーツ活動の指導・審判	C	1,850 円
65歳以上	スポーツ活動・スポーツ活動の指導・審判	B	1,000 円

補償内容など詳しいことはお問い合わせ下さい

（公財）スポーツ安全協会 茨城県支部

〒310-0911水戸市見和1-356-2　TEL.029(300)4710

http://www.sportsanzen.org